

## 白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み (第3報)

川 島 敦 仁・北 原 岳 明・近 藤 崇・宮 崎 顕 治  
村 中 克 弘・有 本 紀 子

石川県白山自然保護センター

### A try of spotlight census of Sika deer (*Cervus nippon*) at the foot of Mt. Hakusan (3)

Atsuhito KAWABATA, Takaaki KITAHARA, Takasi KONDO, Kenji MIYAZAKI  
Katsuhiro MURANAKA, Noriko ARIMOTO

*Hakusan Nature Conservation Center*

#### はじめに

石川県においてニホンジカ (*Cervus nippon*) (以下、シカ) が高密度化した場合に、危惧される問題の一つに、白山の高山植物への影響が挙げられる。シカが低地に高密度に生息する地域では、高山帯に侵入して高山植物に甚大な被害を及ぼした事例が報告されている (中部森林管理局, 2007)。石川県では、生息密度が低いと考えられている現状から白山麓のニホンジカ生息状況を把握するため2018年からライトセンサスを実施しており (近藤ほか, 2019), 今回は2019年から2022年までの4年間に行った調査結果について報告する。

#### 方 法

調査は2019年から、毎年11月中旬から下旬にかけて、石川県白山市の林道を中心に、5本の調査ルートを行った。2022年は自然災害で通行止めとなった地点が出たため、従来のルートとは標高の異なるルート、また、シカの糞塊調査から密度が比較的高いと推測されたルートを新規に2つ追加し、標高40-1,070m, 1ルートにつき6-17kmで調査を行った。(表1, 図1)。調査ルートの植生はブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹林を中心として、一部にスギ人工林が点在する。調査時間は日没後のおおむね17時半から20時半の間として、運転手1人、観察者2人ないし3人で行った。車はハイビームをつけて時速10km程度で走行し、

観察者はスポットライト (Q-Beam 400,000 candlepower BIG MAX, BRINKMANN社製) で左右をそれぞれ照らして動物を探した。動物を発見した場合は停車し、必要に応じて双眼鏡やフィードスコープを用いて動物の種類を確認し、位置情報とともに記録した。地図は国土地理院の電子地形図25000を加筆改変して使用した。

#### 結 果

2022年は、瀬波、原沢、五十谷の3つのルートでニホンジカを計9頭確認した。そのうち、瀬波では、2020年に1頭が確認されていたが、本年は5頭を確認

表1 調査概要

調査地	標高(m)	距離(km)	日付	時間	調査者ほか
西山	660-1070	9	2019/11/19 2020/11/19 2021/11/19 2022/11/22	17:37-18:06 17:31-18:30 17:30	通行止のため実施せず 八神, 小川, 宮崎 八神, 宮崎, 稲田 川島, 近藤, 有本
赤谷	470-830	10	2019/11/22 2020/11/19 2021/11/19 2022	18:45-19:48 18:37-19:23 19:03-20:44	八神, 宗田, 稲田 八神, 小川, 宮崎 八神, 宮崎, 稲田 通行止のため実施せず
市ノ瀬	530-830	10	2019/11/18 2020/11/17 2021/11/16 2022/11/21	17:45-18:39 17:48-18:34 17:37-18:20 17:30	八神, 北市, 宗田, 稲田 八神, 宮崎, 稲田 八神, 宮崎, 有本 川島, 宮崎, 北原
瀬波	300-490	6	2019/11/29 2020/11/26 2021/11/29 2022/11/22	17:42-19:05 17:38-18:28 17:39-18:38 17:30	八神, 小川, 北市, 野上 八神, 北市, 小川 八神, 川島, 村中, 稲田 川島, 近藤, 有本
高倉山	310-990	17	2019/11/26 2020/11/24 2021, 2022	17:22-19:29 17:20-18:52	八神, 小川, 宗田, 野上 八神, 北市, 稲田 通行止のため実施せず
原沢 (新)	40-130	5	2022/11/24	17:29-18:22	川島, 北原, 近藤, 村中
五十谷 (新)	200-330	11 (内5は波佐羅)	2022/11/24	18:32-20:11	川島, 北原, 近藤, 村中

※調査者の先頭は運転手

認した。瀬波川を挟んだ松尾山の山腹、距離にして約150mにいた雄のニホンジカ 2 頭を双眼鏡で確認、また、その対岸となる山林に雌雄不明のニホンジカ 3 頭が距離にして約40～50mにいるところを目視できた。2022年より、新規調査ルートとした原沢(小松市原町～沢町間の林道)で雌のニホンジカ 1 頭とその仔と思われる 1 頭を梅ノ木山山林で確認した。また、同じく新規の五十谷(白山市五十谷町近隣)において 2 頭のニホンジカが60mほど離れた山林を移動中のところを確認した。

ニホンジカ以外では、2019年にはコウモリ類(*Chiroptera*)、タヌキ(*Nyctereutes procyonoides*)、ツキノワグマ(*Ursus thibetanus*)、2020年には、テン(*Martes melampus*)、ニホンカモシカ(*Capricornis crispus*)、タヌキ(*Nyctereutes procyonoides*)、2021年にはイノシシ(*Sus scrofa*)、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、アカギツネ(*Vulpes vulpes*)、2022年には、ニホンカモシカ、ニホンノウサギ(*Lepus brachyurus*)、ハクビシン(*Paguma larvata*)、アナグマ(*Meles anakuma*)、テン、その他、年により、中型不明、大型不明が目撃された。

## 考 察

2018年から2019年のライトセンサスにおいて、瀬波ではニホンジカは確認することができなかったが、2020年は1頭、2022年は5頭とわずかではあるが目撃されるようになった。

また、2022年は新規調査地の原沢、五十谷でも各

2頭ずつ確認された。白山周辺地域では自動撮影カメラによる調査でニホンジカの個体数が増加する初期段階であり(北市他2021)、また、糞塊調査でも生息密度が増加傾向にあり(石川県、2022)、今回のライトセンサスの目撃数においても同様な傾向がみられた。今後ニホンジカの密度を低く抑えるよう個体群を管理していくことが必要で、そのための基礎資料とするため、西山などデータが得にくい調査地点の再考なども含め、修正を加えつつ様々な手段を駆使して生息状況のモニタリングを継続していくことが重要である。

## 引用文献

- 石川県(2022)第3期石川県ニホンジカ管理計画. 石川県, 金沢
- 中部森林管理局(2007)平成18年度南アルプスの保護林におけるシカ被害調査報告書.
- 北市 仁・近藤 崇・江崎功二郎・有本 勲・宗田典大・内藤恭子・稲田奈緒・小川弘司・小谷直樹・野崎亮次(2021)白山周辺地域における自動撮影カメラによるニホンジカ生息状況調査. 石川県白山自然保護センター研究報告. 47: 39-44.
- 近藤 崇・北市 仁・八神徳彦・小川弘司・村中克弘・亀田尚志・稲田奈緒(2019)白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み. 石川県白山自然保護センター研究報告. 45: 11-14
- 八神徳彦・稲田奈緒・宮崎顕治・小川弘司・北市 仁・野上達也・宗田典大・村中克弘・川島敦仁・有本紀子(2022)白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み(第2報). 石川県白山自然保護センター研究報告. 48: 69-71

表2 ライトセンサスで目撃された動物

調査地	目撃種				
	2018*	2019	2020	2021	2022
西山	中型不明1	実施せず	なし	なし	なし
赤谷	ニホンカモシカ2, キツネ1,テン1	コウモリ類1	テン1	ニホンジカ?4, イノシシ1 ツキノワグマ1, ニホンカモシカ1	実施せず
市ノ瀬	アナグマ1,モモンガ1	タヌキ1, ツキノワグマ1, 中型不明1	中型不明1	なし	なし
瀬波	ニホンカモシカ2, テン1,中型不明1	なし	ニホンジカ1, ニホンカモシカ2, テン1,中型不明3	ツキノワグマ2, キツネ1, ニホンカモシカ1, 中型不明2	ニホンジカ5, ニホンカモシカ6, ウサギ2,ハクビシン2, アナグマ1
高倉山	ノウサギ1,タヌキ1 ニホンカモシカ1, 中型不明1	なし	テン1,タヌキ1	実施せず	実施せず
原沢	-	-	-	-	ニホンジカ2,テン1
五十谷	-	-	-	-	ニホンジカ2, ハクビシン1, 中型不明2,大型不明1

\*近藤ほか(2019)より引用 中型不明はタヌキ、アナグマ、キツネ 大型不明はカモシカと推測

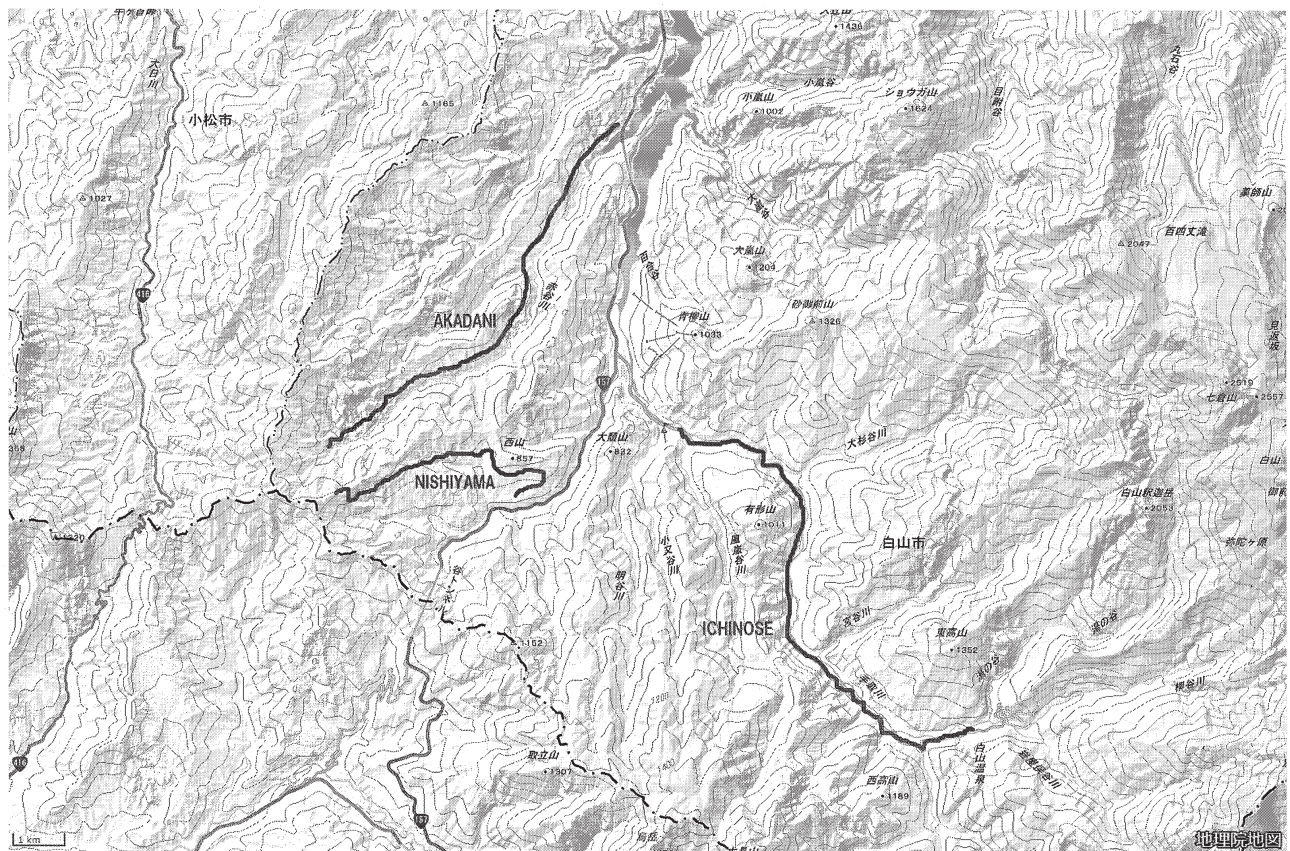
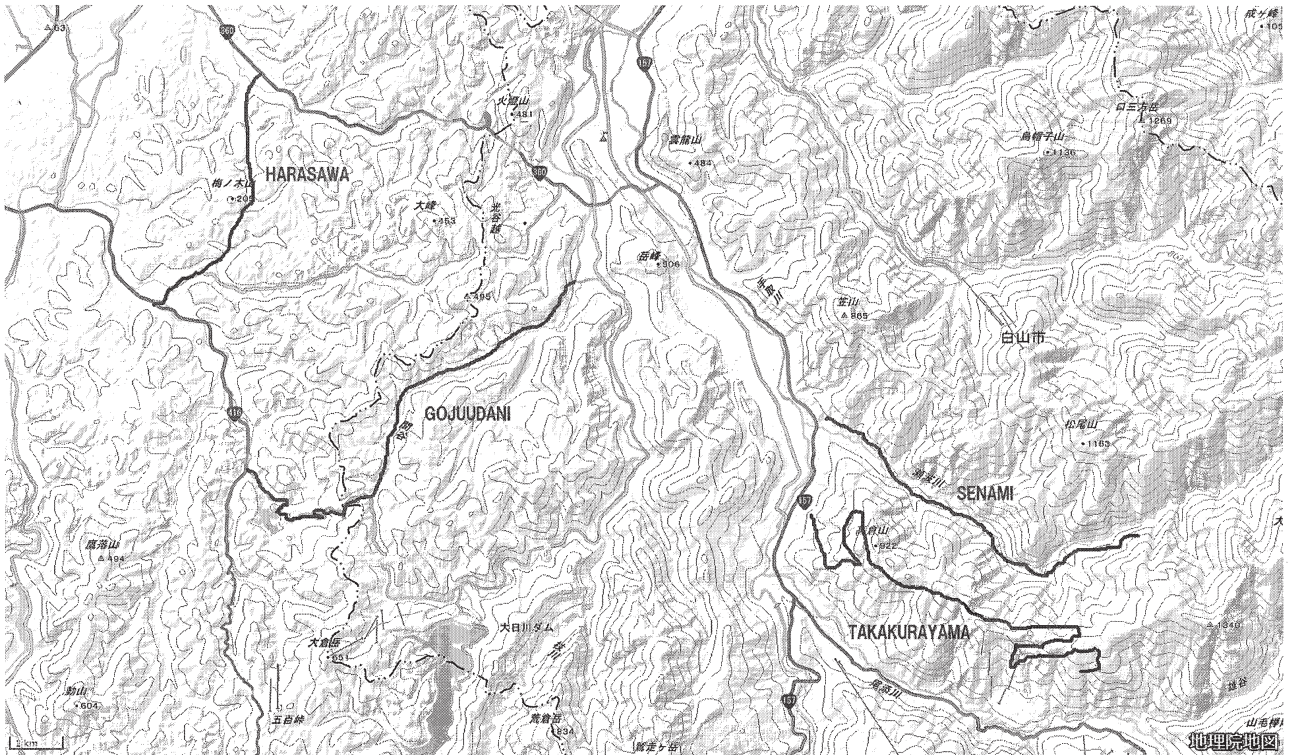


図1 調査地の全体図

